

第4回定例研究会

能楽における“翁”と“里”のかかわり

第4回定例研究会は、能楽師であり、重要無形文化財総合指定保持者の梅若基徳先生をお招きし、「能楽における“翁”と“里”のかかわり」というテーマで講演いただきました。

【講師プロフィール】

中世より代々続く能の名門・梅若家に生まれ、3歳で初舞台。

関西を中心に日本各地での公演活動のほか、フランス・イタリア・スイス・オランダ・ギリシャ・アメリカ・クロアチア等数多くの海外公演にも出演。昨年8月にはスロバキア公演に参加し、好評を博す。

他の古典邦楽や現代演劇、音楽等とのコラボレーションも積極的に模索し、能楽を日本の伝統芸能としてだけでなく、世界に通じる演劇としての評価や可能性も高めていきたいと考えている。

文化庁委嘱伝統文化子ども教室、APAC Theatre Festival(アジア太平洋地域インターナショナルハイスクール演劇祭)、和文化教育における高校・大学・教職員研修や市民大学等、幅広い年齢層対象の特別講義やワークショップも多数務め、未来の担い手育成及び日本の伝統芸能の普及・振興にも力を注ぎ、活動中。

自主演能会「能を観る」主催。2012年「能楽道本座」結成。公益社団法人日本能楽会及び公益社団法人能楽協会会員。著書に『能に観る日本人力』(BAB出版)がある。

講師

梅若 基徳 氏(能楽師／重要無形文化財総合指定保持者)

指定討論者

秋山 眞 氏(能楽文化振興協会代表)

大森 亮尚 氏(古代民俗研究所代表)

笹川 洋子 氏(神戸親和女子大学文学部総合文化学科教授)

テーマ

能楽における“翁”と“里”のかかわり

講演日

2013年12月21日(土) 14:00～17:00 受付開始 13:30～

場所

武庫川女子大学 甲子園会館 K-205

※駐車場がございませんので、公共の交通機関をご利用ください

※申込不要

